

築コンクール」の審査に携わることで、「大阪の建築家」の現在を把握するとともに、「大阪の建築界」の針路についての考えを深めてゆきたいと思う。

さて本年度の審査の経過について述べておきたい。今年は大阪府知事賞部門に29点、渡辺節賞部門に7点の応募があった。まず書類による1次審査を実施、投票で多くの票を集めた上位作品および個別の委員から強い希望があった10作品を実査の対象とした。そのうえで現地を訪問し設計者や施主から説明を受け、質疑応答を行った。

最終審査は大阪府建築士会の事務所で行った。多くの審査委員から優れた作品であると支持を得た作品から、全員の合意を得て2作品を「大阪府知事賞」、1作品を「渡辺節賞」とすることになった。また知事賞を贈るには全員の一致を見なかったが、複数の委員から強く推す意見があった3作品について、審査委員長の判断によって奨励賞を贈ることとした。個別の評価については別掲の審査評を参照していただければと思う。大阪府知

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 藤田美術館

設計者 平井浩之（大成建設株式会社 関西支店 設計部）



建築位置／大阪市都島区	竣工年月／2020年8月	建築面積／2,171.63㎡
建物用途／美術館	構造／RC造・S造	延床面積／4,214.36㎡
建築主／公益財団法人 藤田美術館	階数／地上2階・地下1階	
施工者／大成建設株式会社	敷地面積／3,305.98㎡	撮影 Akira Ito・aifoto

〈審査講評〉大阪財界の重鎮であった藤田傳三郎ゆかりの美術館を建て替えたもの。外部に開く大庇の下部空間と閉鎖的な展示室とを明確に区分しつつ、双方を繋ぐ装置として収蔵品を守り続けてきた蔵の扉を象徴として再利用している点が印象的である。ディスプレイの什器など展示空間の創意工夫も評価したい。隣地の市営公園とのあいだの塀を撤去、網島御殿と呼ばれた屋敷地を追想させるランドスケープが優れている。建屋の白さが際立つ夜景も演出も美しい。施主との話し合いを重ね、大阪の文化を継承する美術館の役割を発揮させるべく、従来にない造形を創出した設計者の意欲は知事賞に値する。（審査委員長 橋爪紳也）

事賞に選定された2作品についてのみ印象を記しておきたい。アプローチは異なるが、2作品のいずれも土地の履歴や周辺の環境を読み込んだうえで、地域の文化に根ざした優れて新しい建築を試みる意欲を強く感じることができた。設計者の熱意と総意工夫に敬意を表したい。

審査を通じて、歴史ある建築関連の賞としては応募作品があまりにも少ない点は課題であると感じた。「大阪建築コンクール」は、その職責を通じて地域社会の発展に貢献し、建築文化の向上に寄与する建築士を讃える表彰制度である。作品を媒介としているが、表彰者個人に贈る点において、他の建築関連の賞とは趣旨が異なる。本顕彰制度の社会的意義を改めて確認し、リブランディングを行い、より多くの志の高い設計者が応募するように社会的意義を高めることが求められる。

また審査にのぞむなかで、初期の入賞作品のなかに、すでに解体された作品が散見されることに気がついた。第1回から66年が経過しているのだから多くの

受賞作品が建て替えの時期にあることは理解されるが、賞を受けた建物が壊されるにあたって、公益社団法人大阪建築士会から、なんらかのメッセージを当時の設計者や施主に投げかけることがあるとは聞かない。私自身、初年度の受賞作である岸和田市庁舎建て替えの検討について参加した経験もあり、気になったところだ。

「大阪建築コンクール」は建築ではなく、建築を介して建築士を表彰する制度なので、その趣旨を鑑みると、いかに優れた建物であっても受賞した建物そのものの保存を訴求するといった活動の必然性はないように思う。ただ建て替えに際しては、先行する作品を凌ぐ優れた建築とすることを求めることがあって良いのではないか。いっぽうで設計図書や映像などの記録保存を要望することもあって良い。大阪さらには関西独自の建築文化を再認識するうえで、優れた建築士が関わった優れた建築物のアーカイブ化には多様なアプローチがあって良い。

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 SPACESPACE HOUSE + ローリングタワー屋台

設計者 香川貴範＋岸上純子（SPACESPACE 一級建築士事務所）



建築位置／大阪市北区	階数／地上2階
建物用途／事務所兼住宅	敷地面積／80.99㎡
建築主／香川貴範＋岸上純子	建築面積／60.61㎡
施工者／super architects	延床面積／114.86㎡
竣工年月／2018年2月	
構造／木造	撮影 鳥村鋼一

〈審査講評〉小さな長屋の改装だが、ここで設計者が行ったのは古い建物を蘇らせただけでなく、中津の寂れた商店街という場所を選び、職住一体型住居という古くて新しい住様式に現代的な空間を与えることであった。1階の設計事務所の活動がショーウィンドウのように作り直されたファサードによって街に活気を与え、2階の家族の場がガジェットと呼ばれる装置によって生き生きと住みこなされる。都市から街路、建物そして家具に至るまできめ細やかな設計者の意図が通底した意欲的な作品である。（審査委員 山本麻子）

■渡辺節賞部門 渡辺節賞 外のない家

設計者 木内菜津子（一級建築士事務所 nua）



建築位置／奈良市
建物用途／戸建住宅
建築主／本木昌裕
施工者／株式会社岩鶴工務店
竣工年月／2022年2月
構造／木造
階数／地上2階
敷地面積／271.18㎡
建築面積／138.12㎡
延床面積／250.25㎡
撮影 小川重雄

〈審査講評〉隣接建物との関係や周辺環境の将来変化、鹿の侵入抑制まで考えて配置されたボリュームに、地域に開かれたフリースペースでのにぎわいが透けて浮かび上がる。また、通り庭のようなスロープを通じ奥へと促されると、季節や時間の移ろいを演出する壁面の自然光とともに、屋外から屋内、パブリックからプライベートへつながる連続性と領域性の交差が心地よい。この屋内外を通じた巧みな空間操作について、特に高く評価された。（審査委員 荻原廣高）

	香川貴範
	1974年6月生まれ
	1994年4月 東京工業大学工学部建築学科入学
	1998年3月 //
	卒業
	2000年3月 東京工業大学大学院修士課程修了
	2000年4月 株式会社坂倉建築研究所入社
	2006年11月 株式会社坂倉建築研究所退社 SPACESPACE 一級建築士事務所開設 現在に至る

	岸上純子
	1979年5月生まれ
	2000年4月 関西大学工学部建築学科入学
	2004年3月 //
	卒業
	2006年3月 神戸大学大学院修士課程修了
	2006年4月 株式会社坂倉建築研究所入社
	2010年3月 株式会社坂倉建築研究所退社 SPACESPACE一級建築士事務所参加 現在に至る

〔主な建築作品と受賞歴〕
2012年 第58回大阪建築コンクール 渡辺節賞／Dアパートメント
2013年 日本建築士会連合会賞 奨励賞／地面と屋根上の家
2017年 第18回宇都宮市まちなみ景観賞／君岡鉄工宇都宮工場
2019年 平成31年日本建築士会連合会賞 奨励賞／SPACESPACE HOUSE
2019年 日本空間デザイン賞 銀賞／SPACESPACE HOUSE
2020年 日本建築学会 作品選集2020／SPACESPACE HOUSE